

陸送協会ニュース

第 **152** 号

2016 年 9 月

編集・発行者

一般社団法人日本陸送協会事務局

東京都新宿区新宿 1-11-15

電話 03-3356-3977 / 7922

9月、10月は

「自動車点検整備推進運動」

強化月間です

《点検・整備ではじめよう 安心クルマ生活》

自動車は、使用期間や走行距離に応じて劣化するものであり、本来の安全・環境性能を維持するためには、自動車ユーザーが責任を持って、適切に点検・整備を行うことが必要です。このため、国土交通省は、関係団体等で構成する「自動車点検整備推進協議会」及び「大型車の車輪脱落防止対策に係る啓発活動連絡会」と協力して『自動車点検整備推進運動』を9月及び10月を強化月間として展開します。大型車の車輪脱落や車体フレーム腐食による事故が発生していることから、大型車に関する適切な点検・整備の実施方法についての啓発を重点項目のひとつとして取り組みます。

※国土交通省より抜粋

● 点検整備の必要性

自動車は日々の生活と社会・経済活動に欠くことのできないものです。しかし、交通事故や環境問題は依然として大きな社会問題になっており、安全で環境負荷の小さい車社会の確立が求められています。

自動車は数多くの様々な部品で構成された機械であるため、使用に伴い、また時間の経過によって劣化・摩耗が進み、その構造や装置の性能が低下します。点検整備を行わないと、走行中に故障したり、排出ガスの増加、燃料の浪費等を招きかねません。さらには整備不良が原因となる事故を引き起こす可能性が高まり、大変危険です。不要なトラブルを防ぎ、自動車を常に良好な状態で使用するためには、ユーザーの皆さんが責任を持って常日頃から自動車の状態を把握し、適切に維持することが重要です。

点検整備の実施はユーザーの義務として法令でも規定されています。きちんと点検整備を行い、自動車を良好な状態に保ちましょう。

日常点検項目の例(マイカーの点検項目)

安全確保と環境保全はクルマの点検・整備から。
日常点検や整備はクルマのトラブルを防ぐだけでなく、排気ガスや騒音の削減にもつながります。特に、多くのクルマには、軽微な点検が欠かせません。日頃からクルマの健康状態を心がけましょう。

点検項目は、安全確保・環境保全の観点から、自動車関係者に対して、特に注意を促す事項を挙げています。特に、点検項目は、安全確保・環境保全の観点から、自動車関係者に対して、特に注意を促す事項を挙げています。特に、点検項目は、安全確保・環境保全の観点から、自動車関係者に対して、特に注意を促す事項を挙げています。

マイカーを点検しよう! 日常点検 15 項目チェックシート

項目	確認方法	確認結果
1. 燃料タンク	燃料タンクの残量を確認する。	☐
2. エンジンオイル	エンジンオイルのレベルを確認する。	☐
3. 冷却水	冷却水のレベルを確認する。	☐
4. ブレーキ	ブレーキペダルを押したときの感覚を確認する。	☐
5. タイヤ	タイヤの空気圧を確認する。	☐
6. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
7. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
8. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
9. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
10. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
11. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
12. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
13. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
14. 点検項目	点検項目を確認する。	☐
15. 点検項目	点検項目を確認する。	☐

拡大版はホームページ協会ニュースに掲載

● 点検の種類

日常点検整備は、日頃自動車を_usingしていく中で、ユーザーの皆さんが自分自身で行うことのできる点検です。この点検は、ユーザーの皆さん自身が運転席にすわったり、エンジンルームをのぞいたり、また、自動車の周りを回りながら自動車の状態をみることによって簡単に実施可能なものになっています。自家用乗用自動車など、いわゆるマイカーのユーザーの皆さんは、走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に実施して下さい。

事業用自動車などの自動車のユーザーの皆さんは、マイカーとは違い、一日一回、その運行の前に実施して下さい。これはトラックやバス、タクシーなどの自動車は、多くの人や物を運搬し、公共性が高く、その社会的影響の大きさから、より確実な点検を実施していただくためのものです。

東北支部

「教育・認定制度」
自走ドライバーク教育

開催日 平成28年6月6日
会 場 岩手県盛岡市 盛岡陸送(株)
出席者 支部役員 事務局
トレーナー 2名
受講者 2名

◆受講者の声

今回受講してとても参考になり、本日の内容を今後の業務に活かしていきたいと思っています。また、更にレベルアップしていきたいです。



東北支部 自走 座学風景

「教育・認定制度」
積載ドライバーク教育

開催日 平成28年7月14日
会 場 宮城県多賀城市 宮城陸送(株)
来 賓 東北運輸局 自動車技術安全部
部長 千葉 美記様
東北運輸局 自動車技術安全部
整備保安課専門官
渡邊 俊一様
出席者 支部役員 事務局
トレーナー 3名
受講者 10名

◆受講者の声

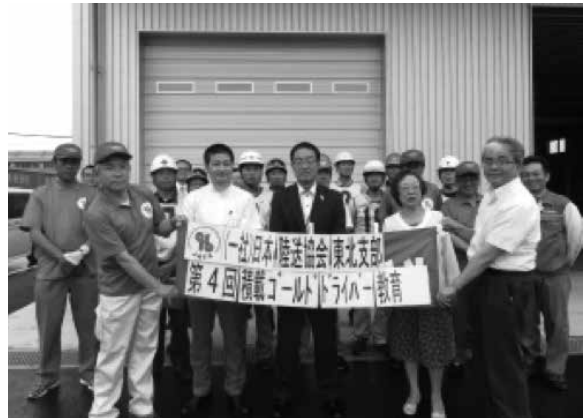
今回受講内容を持ち帰り社内展開をし、交通事故や商品事故を無くしていきたいと思っています。



東北支部 自走 実技風景



東北支部 積載 実技風景



東北支部 積載

関東支部

「教育・認定制度」
積載ドライバーク教育

開催日 平成28年7月9日
会 場 神奈川県横浜市金沢区
日産自動車 追浜車両センター
出席者 本部事務局長 支部役員 事務局
トレーナー 9名
受講者 11名

◆受講者の声

実技の車輛が通常使用しているトラックのメーカーが違い自分にとってプラスとなりました、他の会社の乗務員さんとコミュニケーションがとれて良かったと思います。



関東支部 積載 座学風景



関東支部 積載 実技風景



近畿・四国支部 積載 座学風景

◆受講者の声
走行や作業のルールを再確認でき初心を
忘れずに今後の業務に取り組んでいきたく
と思います。

近畿・四国支部

「教育・認定制度」
積載ドライバー教育

開催日 平成28年7月3日

会場 大阪府池田市

来賓 ダイハツ工業(株) 池田第2工場内

近畿運輸局 自動車技術安全部

管理課長 奥野 和之 様

出席者 本部寺門専務理事 支部役員

事務局

トレーナー 4名

受講者 8名



近畿・四国支部 積載

「教育・認定制度」
自走ドライバー教育

開催日 平成28年7月26日

会場 大阪府池田市

来賓 池田市民文化会館

近畿運輸局 自動車技術安全部

管理課長 奥野 和之 様

事務局 溝添 愛 様

出席者 支部役員 事務局

トレーナー 3名

受講者 7名

◆受講者の声

今回安全に対する考え方の再認識ができました。毎日基本を大事に回送業務を行っています。



近畿・四国支部 自走



近畿・四国支部 自走 座学風景

入退会情報

入 会 (3社)

関東支部 平成28年7月 株式会社岡三物流 木更津営業所
 関東支部 平成28年7月 株式会社ジェイ・キャリア
 関東支部 平成28年9月 株式会社鈴友

退 会 (4社)

東北支部 平成28年7月 高蔵運輸(株)
 中部支部 平成28年7月 (株)ソウイング
 関東支部 平成28年7月 (株)東和輸送
 近畿支部 平成28年7月 (株)カンリク神戸 大阪営業所

事務局日誌

経過報告

10/22	教育・認定制度	関東支部	運行管理者
7/26	教育・認定制度	近畿/四国支部	自走
10/26	東北支部総会		
8/25	教育・認定制度	中部支部	運行管理者
10/29	教育・認定制度	中国/四国支部	積載
11/17	定例理事会、日本自動車車体工業会との		
	合同研修会		
10/20	正副会長会議兼総務部会		
11/18	教育・認定制度	関東支部	自走

今後の予定

会員様へのお願い

- ・平成28年9月「陸送事業概況調査」を既にお願ひしておりますが9月末までに本部への回答をよろしくお願い致します。
- ・平成28年9月 回送運行標板・積載車数の調査を実施中ですので、支部長（関東支部は分会長）宛てにご回答のご協力よろしくお願い致します。
- ・平成28年10月 日本陸送協会は自動車総連様と共同で積載車の路上積み降ろし実態調査を行いますのでご協力のほどよろしくお願い致します。
- ・日本陸送協会のホームページを今年2月より立ち上げておりますが協会ホームページを多くの皆様に閲覧して頂く為に会員様のホームページからもリンク出来るように、バナーを貼って頂けますようお願い申し上げます。

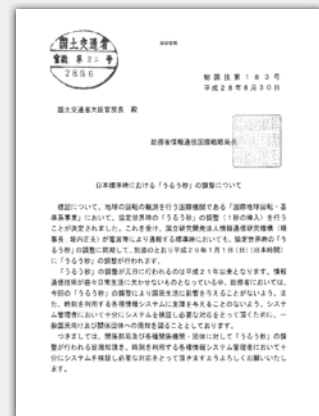
日本陸送協会ホームページURL <http://rikusoukyoukai.org/>

国土交通省より日本標準時における「うるう秒」の調整についてのお知らせ

日本標準時における「うるう秒」の調整について

標記について、地球の回転の観測を行う国際機関である「国際地球回転・基準系事業」において、協定世界時の「うるう秒」の調整（1秒の挿入）を行うことが決定されました。これを受け、国立研究開発法人情報通信研究機構（理事長：坂内正夫）が電波等により通報する標準時においても、協定世界時の「うるう秒」の調整に同期して、別添のとおり平成29年1月1日（日）（日本時間）に「うるう秒」の調整が行われます。

「うるう秒」の調整が元日に行われるのは平成21年以来となります。情報通信技術が益々日常生活に欠かせないものとなっている中、総務省においては、今回の「うるう秒」の調整により国民生活に影響を与えることがないよう、また、時刻を利用する各種情報システムに支障を与えることのないよう、システム管理者において十分にシステムを検証し必要な対応をとって頂くために、一般国民向け及び関係団体への周知を図ることとしております。



安全確保と環境保全はクルマの点検・整備から。

日常点検や定期点検はクルマのトラブルを防ぐだけではなく、地球温暖化の原因であるCO₂の削減にもつながります。特に、長くご使用のクルマには、細やかな点検が欠かせません。日頃からクルマの健康管理を心がけましょう。

日常点検

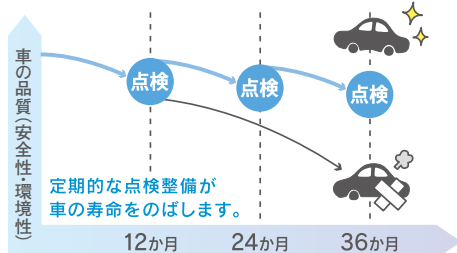
日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検を行うことが必要です。チェックしてみましょう。

定期点検

定期点検は、安全確保・環境保護の観点から、自家用乗用車については、1年ごとに実施しなければなりません。

車検（自動車の検査）は、安全・環境面で国が定める基準に適合しているかどうかを一定の期間ごとに確認するものであり、次の検査までの安全性等を保証するものではありません。したがって、使用者は日常点検整備や定期点検整備を確実に実施するとともに、使用に応じた適切な保守管理を行う必要があります。

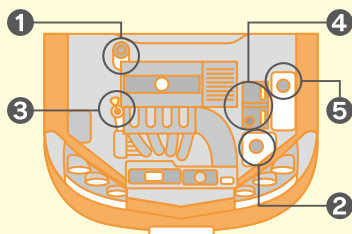
月日が経つと？（自家用乗用車）



マイカーを点検しよう！日常点検 15 項目チェックシート

判定 ○ or ×

日常点検 #01



エンジンルーム 5項目



1 ブレーキ液の量

ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインとの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安易に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。



2 冷却水の量

冷却水のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインとの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近いが、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。



3 エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインか、ギザギザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。



4 バッテリー液の量

バッテリー液の量が規定の範囲（上限と下限の間）にあるかを車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が高いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。

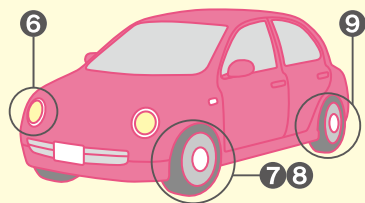


5 ウインド・ウォッシャ液の量

ウインド・ウォッシャ液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。

☐	☐
☐	☐
☐	☐
☐	☐
☐	☐

日常点検 #02



クルマの周り 4項目



6 ランプ類の点灯・点滅

クルマにはヘッドライト、スモールランプ、ブレーキランプ、テールランプ、ウinkerなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。



7 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無を目や手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを入念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。



8 タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみ具合を目で判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができればタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。

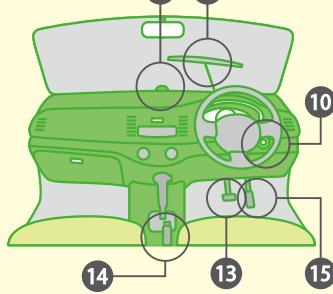


9 タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが現れたら、早急にタイヤを交換しましょう。※スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出現します。

☐	☐
☐	☐
☐	☐
☐	☐

日常点検 #03



運転席 6項目



10 エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。



11 ウインド・ウォッシャ液の噴射状態

ウインド・ウォッシャ液を噴射させ、ワイパーの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当か点検します。



12 ワイパーの拭き取り能力

ワイパーを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウインド・ウォッシャ液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパーのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウインド・ウォッシャ液を噴射してからワイパーを作動させましょう。



13 ブレーキの踏み残りしろと効き具合

エンジンをかけて異音がないかどうか確かめたうえで、ブレーキ・ペダルを強く踏み込んだとき、床板との間（踏み残りしろ）が適当かどうか確認します。踏みごたえが「いつもと違うな」と感じたら要注意です。



14 駐車ブレーキの引きしろ（踏みしろ）

駐車ブレーキをいっぱい引いた（踏んだ）ときに、引きしろ（踏みしろ）が多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検します。ブレーキ・ペダルと同様に、新車時や定期点検直後の違いを比較してください。



15 エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセル・ペダルに引っ掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

☐	☐
☐	☐
☐	☐
☐	☐
☐	☐

※自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。